

西オーストラリア州と南オーストラリア州・空手道指導記

高橋 俊介

今回の紀要は、オーストラリア各地において空手道の指導を行なうに当り、西オーストラリア州と南オーストラリア州の部分の指導紀行を書くことにした。

平成8年7月15日、オーストラリアに空手道の指導に向かう日である。前日より成田のホテルに宿泊し、この日の朝を迎えたが、外の気温はもう20度近くに達する蒸し暑さである。目的地のオーストラリアである南半球は冬である。

POSTCARD

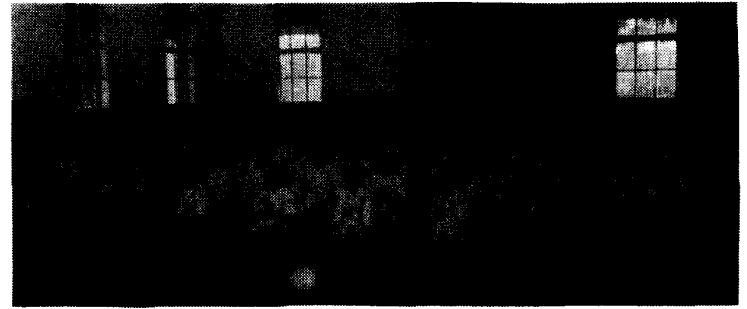
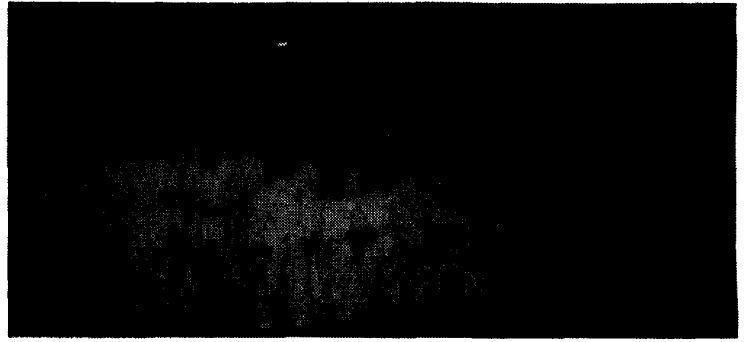
衣類は冬物ばかり用意したので、出発前の蒸し暑さが身に染みる。午前10時、ホテルから車で成田空港に向かう。空港に到着するとすぐにチェックインを済ませて空港内に入る。出発までカンタス航空メンバーズルームで時間を潰す。

今回の出発便は、カンタス航空70便午前11時55分発のDARWIN経由の西オーストラリア州のPERTH行である。出発前に聞かされていたのだが、今回からオーストラリアまでの機内は全面禁煙とのことである。私は大変なヘビースモーカーである。私には大変厳しい旅立ちである。成田からDARWINまでの飛行時間は6時間50分である。飛行機は順調に飛行しDARWINに到着、そこで1時間ストップし、その後DARWINからPERTHに向け出発、PERTHまでの飛行時間は3時間30分である。PERTHに到着したのが

午後11時30分、7,900kmの空の旅も無事到着である。PERTHの空港には西オーストラリアの責任者であるD. PLAYLE君が出迎えてくれて居た。彼との挨拶もそこそこに長い時間の禁煙に堪えかねて空港の外に出て一服しようと外に出ると外は暴風雨である。一気に寒気がする。彼の話しでは一週間こんな天候だとのことである。彼の車で空港近くのホテルに直行しチェックインをする。部屋に入り彼と西オーストラリアでの指導予定を聞くと16日と17日がGERALDTONとのことである。GERALDTONには午前7時の飛行機で出発するとのことである。もう何時間もない。彼と別れホテルのフロントに電話で午前5時30分のモーニングコールを予約しシャワーを浴びベッドに入るが、窓に打ちつける風の音と雨の音が煩く、なかなか寝つかれずうとうとしている内にモーニングコールである。出発の準備を済ませて、午前6時15分ホテルの送迎バスで国内線アンセット航空に向かうが、外は相変わらず風が強く、大粒の雨が降っている。午前7時PERTHからGERALDTONに30人程が乗る小型機で出発である。

PERTHからGERALDTONまで約430km、1時間30分の飛行である。機が離陸するとまもなく機は木の葉の様に揺れ始める。本も読めずもちろん書き物もできない。少々不安であったが、何とかGERALDTON上空に来たときはホッとした。上空から地上を見ると緑が一面に広がっている。全てがゴルフ場の様な気がする。機を降りるとGERALDTONの責任者P. COSTANTINO君が出迎えてくれて居た。彼の話しでは、GERALDTONもPERTHと同じ様に一週間も暴風雨が続いているとのことである。

POSTCARD



ホテルに直行し部屋に入って一眠りと考えたが結局寝つかれず町に出てみるが、町といっても15分も歩けば一回りしてしまう小さな町である。結局また部屋に戻り寛ぐ。GERALDTONの町は人口が25,000人程度の海に面した小さな町ですが、日本へ輸出する伊勢海老の産地として有名である。今日がオーストラリアで最初の指導日である。稽古は午後2時からなので、それまで部屋で時間を潰す。昼食には久しぶりにオーストラリアの大きなステーキに舌鼓を打つ。2時少し前PASCO君が迎えに来たので道場に向かう。道場に入るといつもより人数が少ないので彼に尋ねると、今週まで西オーストラリアの学校が休みで多くの生徒が家族で旅行に出ているので生徒数が少ないとのことである。

生徒は6～7才位の少年、少女から50才代の大人までさまざまな年齢の人達である。海外では日本武道、特に空手道の愛好者は大変に多いのです。その理由は日本武道に興味を持つと同時に日本武道の持つ礼節、信儀、勇気、努力を示すのです。ですから海外での武道の師範と言われる方々は日

本武道の持つ良き点を自ら実践行動し指導せねばなりません。海外に於いて道場の出入りに6～7才の少年、少女が頭を下げ一礼をして道場に入る姿を見ていると日本の若者の礼節を忘れた態度には日本人として心が憂えてなりません。稽古の始めです。全員正座して黙想、黙想やめの号令で正面に礼、先生に礼、全て日本語です。私も気合いが入ります。まずは基本の稽古、一挙手、一投足、真剣に技を出し気合いを入れる。6～7才の少年、少女も休むことなく稽古を続ける。外の寒さもなんのそで道衣に汗がにじんでくる。私の稽古方針は基本稽古に必ず1時間を取ります。基本さえしっかりしていれば何歳になっても空手道の技術を忘れることは無いと信ずるからであります。基本稽古の後は組手の稽古、これは中級者、上級者が初心者相手に約束組手の相手をしてやるのです。その後上級者が中級者相手にと進めていきます。子供同志でも組手の稽古となると気迫が違って来る。指導していても本当に気持ちが良い。有段者の組手では8月に日本で行なわれる第6回松寿ワールドカップ、オーストラリア代表選手であるA. CAREY君が居るので組手試合の特別稽古を始める。オーストラリアでは日本の22倍という広大な国なので代表選手が合同で稽古を行なうことが出来ないので普段は自分自身が試合相手を想

定したりして意識して稽古をせねばなりません。彼自身も大会に参加することを自覚し、目標を持って稽古を積んできたらしく、動きも、体調も順調に持って来ている様に思われる。期待できそうである。相手の懐に早く低く入る稽古を彼に指導する。組手の稽古も1時間、生徒もそうとう疲れてきた様子なので、最後に全員で形の稽古を30分程して稽古を終わることにした。全員最初と同じ様に一列に並び正座、黙想の号令で気持ちを調べ、最後に礼をして稽古を終える。

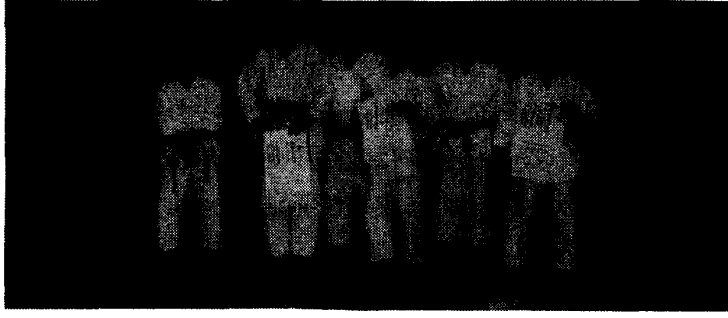
稽古が終わり解散になると子供達が私の所にやって来て先生稽古ありがとうといってくれる。子供達と暫く話しをして私も道場を出る。次の稽古は午後6時からである。ホテルに戻り、シャワーを浴びて寛ぐが、眠る気にもなれないので町にコーヒーを飲みに出掛けて時間を潰すことにした。6時少し前PASCO君が迎えにきたので2回目の稽古に道場に向かう。



道場に入ると先程まであれだけ稽古をしたのと思うのですが、子供達が50人程集まって居る。本当にオーストラリアの子供は元気である。最初の稽古と同じ様に基本から始め、組手の稽古を短くして、形の稽古を重点的に指導する。来年の4月にPERTHで行なわれる全豪選手権大会を目標にしてZ. BIANEZOS 14才とN. BIANEZOS 11才の姉妹とA. NEALE 14才、C. HAREN 15才の女の子が大変に上達しているので形を集中的に指導する。時計をみるともう8時を過ぎているので稽古を終る。一日が終わった。部屋に戻りシャワーを浴び夕食に出掛ける。今夜はビールを飲みながら海老の料理に舌鼓を打ってゆっくり食事をする。時計を見るともう10時を過ぎているので部屋に戻り今日一日の記録を書き終え、ベッドに入

るが外は益々激しい風と雨が窓に打ちつける音が煩く寝つけない。ただうとうとしているだけの様である。7月17日の朝を迎えるが相変わらず外の天候は荒れている。私自身は睡眠不足である。午前中は稽古が無いので町に出て喫茶店に行ってコーヒーを飲みながら時間を潰す。午後2時からの稽古であるが、気分はそんなに爽快でも無い。

昨日と同じ様に午後2時少し前PASCO君が迎えに来たので道場に向かう。道場は昨日と同じ顔ぶれの生徒が準備運動を始めて居る。私も気合いを入れる。指導は昨日の反復稽古、基本、組手、形と十分に時間をかけて行なうが、やはりA. CAREY君の組手の試合稽古が気になるので、特に念入りに稽古をさせる。又、今日は稽古の後、5時から昇級審査と昇段審査を行なうので、生徒もかなり気合いを入れて稽古に取り組んでいる。2時間半程の稽古に汗を流し、稽古を終え、生徒は一休みである。私は昇級審査と昇段審査の後に渡す証書にサインをしたりの準備である。審査の時間が近づくとつれ道場の中が騒がしくなってきた。子供の生徒の父兄が見学に来たのである。準備ができたので審査を始める。最初は今回初めて審査を受ける生徒から始めるが、6才~7才の少年少女には目を見張らせられる。本当に上手である。このように上手に子供を指導してくれるPASCO君には感謝の気持ちが湧いてくる。初級者、中級者約40数名の昇級審査を終え、今回初段を目指す3人とPASCO君自身が3段を受験することである。昇級審査は基本、組手、形と行なうのですが、3段の場合は特に組手を5人程相手にするので大変厳しい審査になる。最後にANDREW君と組手をやらせるとPASCO君はダウン寸前であるが、私のやめの号令に気を取り直した様である。有段者審査も、初級者、中級者審査も全員合格である。証書を受け取る子供達は喜びを隠せない様子である。解散すると両親の元に走り、両親から祝福のキスを受けている。私の気持ちも和む時である。何人かの生徒が私と写真を撮る様にと強請るので気持ちよく応ずる。GERALDTONの指導、審査会も午後7時半に



終了した。今夜は有段者の諸君と夕食をしながら一杯飲む約束である。8時15分にホテルのレストランに集合、私もホテルに戻りすぐシャワーを浴び、レストランに向かう。レストランで皆と合流し、まずビールで乾杯である。一気に場が盛り上がる。食事中はANDREW 君の世界大会参加の話に花が咲く。本当に楽しい夕食である。11時になるとレストランもクローズ。飲みたりない様なので、バーに移ってもう少し飲むことになり、又、場が盛り上がってしまった。時計を見るともう12時に近い。私は明日の朝が早いので皆とまた来年の再開の約束をして部屋に戻り、荷物をまとめ、その後で今日の記録を書き終えてベッドに入る。今夜こそ寝ようと思って居るが、なかなか眠れない。

7月18日、やはり熟睡できず、午前5時半には目が覚めてしまった。相変らず外は強風と雨である。6時半になったのでシャワーを浴びてレストランで朝のコーヒーを飲みながら出発までの間の時間を潰す。7時半にPASCO 君が迎えに来たので空港に向かう。空港でチェックインをすると、飛行機が1時間半程の遅れになるとのことである。しかたなくPASCO 君と町に戻ってコーヒーでも飲んで時間を潰すことにした。再び空港に戻り、空港の入口でPASCO 君と別れ、空港会社のカウンターに行くと、こんどは2時間程遅れるとのことである。オーストラリアのローカル線では決して珍しい事ではないのですが、1人で又2時間誰も居ない空港で時間を潰すこと程佗びしいものはない。午前11時やっと飛行機が到着、11時30分PERTH に向け飛び立つことができた。この時は先程までの強風と雨が嘘の様にやみ、すばらしい天候に変わってPERTH まで快適な飛行であ

る。

12時半にPERTH 空港に到着、空港にはBUSSCELTON道場の責任者P. MARKOPVC 君が出迎えてくれて居た。彼も今朝早くBUSSCELTONの町を出て来たが、私の飛行機の遅れでそうとう待ちくたびれた様子である。すぐに彼の車でPERTH から270km のBUSSCELTONに向かう。

BUSSCELTONは人口18,000人程のリゾート地で夏場は大変賑やかになる町である。彼は雨の

POSTCARD

中、車のスピードを上げるので、一眠りと思っていたが、気が気でなく寝ることができない。約2時間半のドライブでBUSSCELTONの町に到着。すぐホテルにチェックインすると、もう生徒は2時から私の来るのを待って稽古をしているとのこと、すぐに道衣に着替え道場に向かう。道場ではGERALDTON と同じ様に子供から大人まで約50人の生徒が稽古をしている。すぐに指導を始める。すると、大変上手なA. KEENAAN 11才の女の子とM. HAWKES 10才の一見女の子に見える男の子が目に入ったので、すかさず二人に技をこまかく注意し指導する。この二人も将来楽しみな生徒である。他の生徒も2時から稽古をしていたので疲れたのか、私を待ちくたびれたのか、相当に疲れた様子なので1時間半程の稽古をして終わる。この後6時から昇級審査と昇段審査を行なうとのことである。ホテルに戻り審査用紙と証書の用意をして再び道場に戻る。この道場でも父兄が子供の審査が気掛りなのか、多くの父兄が見学に来ている。審査の途中、父兄の方に目をやる



と、不安そうな父兄や、自分の子供が旨くできたと思う父兄は満面の笑みを浮かべている。有段者の審査では、初段受験者が一人合格である。ここでも審査が終わり、証書を受け取るとすぐに父兄の所に行き、祝福のキスを受けている。すると必ず生徒と家族が私の所に来て写真を撮る様せがむのである。気持ちよく応じてやる。審査終了後、ホテルに戻るともう9時近い。レストランに行き食事をしようとする、生徒や父兄が私と一緒に食事をすると待って居る。皆で楽しい夕食になり、ビールも入って話しが盛り上がり、時の過ぎるのも忘れてしまったが、時計を見るともう12時を過ぎている。皆はこれからだと言うような雰囲気ですが、皆には申し訳けないが、私は先に失礼させてもらって部屋に戻る。今日1日700kmの指導行程を終えてベッドに入る。

7月19日、今日の指導は睡眠不足の連続である。今朝も熟睡できずに朝を迎える。しかし今朝の天気は風も雨も無い清々しい朝である。午前9時、

PETER 君が奥様と一緒に迎えに来てくれた。早速彼の車でPERTHに向かう。快適なドライブである。途中コーヒータムを入れたりして約3時間程でPERTHのFREMANTLEに到着。ここでは毎回宿泊するESPLANADEというホテルにチェックイン。今日は午後6時から稽古とのことであるので、それまでホテルで一人ゆっくり時間を潰し寛ぐことにした。FREMANTLEは港町である。ヨットの世界的に有名なアメリカンズカップで最初にアメリカを破ってカップをオーストラリアにもたらし、アメリカがチャレンジレースに挑んだ有名な港町である。

5時半に迎えが来たので道場に向かう。道場に着くと、生徒が沢山いるので驚かされた。今夜の稽古は有段者と茶帯だけの稽古で、他の生徒は明日の稽古がPERTHとGERALDTONそれにBUSSCELTON道場との合同稽古とのことであ

POSTCARD

POSTCARD

る。そのためにわざわざ車で何時間もかけてよく集まって来たものである。有段者の中には GERALDTON から来た A. CAREY 君も居る。聞くと車で5時間かかったとのことである。それに女子でオーストラリアの代表選手である T. VELLA と M. VELLA の姉妹も居る。そして男子の代表である M. SHAYLOR 君も居るので、世界大会のための特別な稽古となった。最初に基本で汗を流して本格的に組手の稽古である。選手クラスの有段者の稽古なので普通の稽古と違って迫力も違うし、一人一人が自覚して稽古をするので指導する私もありあいがある。1時間程組手の稽古をして、次に形の稽古に移る。女子の選手である T. VELLA は今回の大会にはさうとう期待できるので、指定形、選定形、得意形と何回も何回も繰り返して反復稽古、特に注意する点は腰の回転を十分に使って技を出せる様にと指導する。総合的には組手も形も技術的には何の問題も無いのだが、気迫で他の国の選手を圧倒することが出来れば十分に上位をねらえる選手である。選手達もその点については前回の世界大会で経験して居るので、気合いを入れての2時間半の稽古を終えた。稽古を終えホテルの戻ると8時である。すぐにシャワーを浴び着替えをして夕食に出掛けると、ホテルのバーで生徒が数人私を待っていて、一緒に食事をしながら飲むというので同行した。話題はすぐに世界大会の話となり、今回の各国選手の特徴や日本選手に誰が選ばれるかなどの話題に終始した。夕食を終え部屋に戻りベッドに入る。今夜は熟睡しようとするが、なかなか寝つかれない。テレビのスイッチを入れると、BRITISH OPEN GOLF の中継をしているので、眠るのも忘れて最後まで見入ってしまった。7月20日外はもう明るくなっている。そのままベッドで時間を潰すが、なんとも退屈である。

8時になったのでシャワーを浴び道衣に着替え、迎えが来るまで部屋で待つことにした。8時半 PLAYLE 君が迎えに来たので道場に向かう。多くの生徒が集まって居る。稽古の始めです。全員で正座して黙想、そして正面に礼、そして列を



ととのえて、初心者も中級者も有段者も全員一緒に基本稽古から始める。基本稽古は有段者も多いので幾つかの技を組み合わせたコンビネーションの基本を重点に稽古をする。1時間たっぷりと基本稽古をするが、オーストラリアの子供は本当にタフである。誰一人として力を抜くことなく稽古に一生懸命である。基本の後は、有段者が初心者と中級者を相手にしての組手の稽古である。約束五本組手、基本一本組手、自由一本組手と進むが、有段者が力を抜くことなく真剣に稽古をするので、他の者も休んだりせず一生懸命に稽古に励む。激しい組手の稽古であるが、怪我人は無くひと安心である。約1時間半の組手稽古を終える。今日の午前の稽古は3時間を予定しているが、少し長くなるので約15分程休憩を入れる。オーストラリアの人は休憩の間、大きいペットボトルで水やソフトドリンクをぐいぐい飲む。日本の子供が見たらビックリするのではないと思われる。

休憩の後、形の稽古を始める。基本形を30分程やって初心者と中級者の稽古を終わる。有段者には選定形をひと通り稽古をし、後は自分自身が得意とする形に別れて得意形の稽古である。オーストラリア代表選手は特に腰の回転を利用するの技が切れる様に何回も何回も反復稽古である。このまま大阪の世界大会まで気を入れて稽古に励んでもらいた。時計を見るともう12時半を回っている

ので稽古を終わる。この稽古が終わると、GERALDTONの生徒もBUSSCELTONの生徒も車で帰るとのことである。運転には十分気を付けるように言って皆と別れホテルに戻り寛ぐ。

ホテルに戻りテレビのスイッチを入れるとオリンピック開会式の中継をやっているではないか。昼食も忘れてテレビに見入ってしまう。午後は4時から昇級、昇段審査とのことである。テレビを見ながら昇級、昇段審査の準備をし終えておく。テレビに見入ってしまい時間が来たのも忘れていると、迎えの者が私がロビーに居ないので部屋まで迎えに来たので私も慌てて部屋を出て道場に向かう。

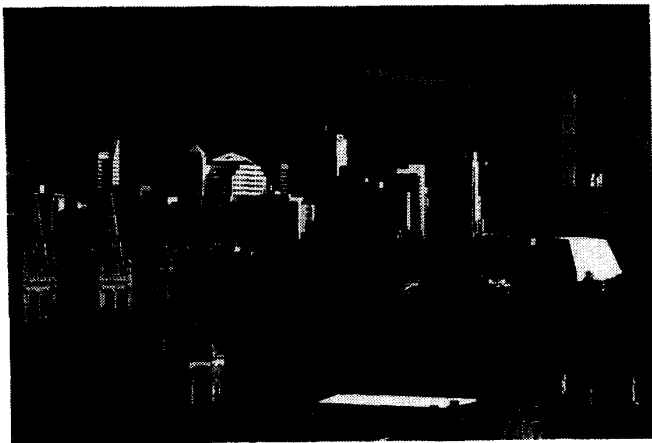
道場はいままで道場と同じように生徒の父兄がたくさん来て居る。毎回の昇級、昇段審査に子供が合格し昇級するのを見て父兄は本当に嬉しいのであろう。初段3名、二段1名、三段にDARRELL君が合格である。合格者も本当に嬉しそうだ。審査を終えホテルの帰る車の中でPLAYLE君が明日は稽古も無く1日休みとのこと、そして今夜は日本料理屋を予約してあるとのことである。日本食と聞いて感激する。8時にホテルのロビーで会う約束をして部屋に戻りシャワーを浴びる。

8時にロビーに降りると数人の生徒とPLAYLE君が待っていてくれた。皆と連れ立って食事に行く。生徒の中には始めて日本食を食べる生徒もいて、食事が来るとめずらしそうに色々質問される。生徒の一人にIAN君という青年が居て、彼は若手の陶芸家であるが大変すばらしい作品を創っている。私に来るたびに必ず一品造って土産にくれるのである。彼は今夜が初めての日本食とのことである。出てくる食事の数々に相当興味を示し、日本の食事の盛り付けの技術と彼の陶芸の技術や気持ちの表現が似ていると話しに熱が入る。とうとう食事もお話で始まり、陶芸家の求道心と日本武道の求道心まで進み、全て彼のペースで食事が終わった時はもう午前1時を過ぎていた。彼はまだ話し足りない様子であるが、皆で店を出ることにし、私はホテルに戻る。

ホテルに戻ってテレビのスイッチを入れBRITISH OPEN GOLFを見る。明日が休みなので最後までじっくり見ることが出来ると思っていたが、いつの間に眠ってしまった。7月21日、今日は稽古も無いし、ゆっくり眠れると思って居たのに午前6時、電話で目を覚ます。こんなに早く何かと電話を取ると、ニュージーランドからである。ニュージーランドチームの選手の一人に日本行きの査証が降りないので、私から日本領事に手紙を書いてほしいとのことである。早速ニュージーランドの日本領事に今回、大阪で行なわれる第6回松涛ワールドカップの説明と生徒の日本入国許可をお願いする旨の手紙を書き、許可の降りるのを願って投函する。この後ももう少し寝ようとベッドに入ってしまった。目を覚ますともう11時を過ぎている。シャワーを浴び、FREMANTLEの町に出てコーヒーを飲みながら時間を潰す。そして人手で賑わうFREMANTLE, MARKETSを見て歩く。すると欲しい物が沢山目に入るが、まだまだ旅の始まりである。荷物になるのは困るので買物はやめてウィンドーショッピングだけを楽しんでホテルに戻る。本を読んだりして時の過ぎるのを待つだけであるが、稽古をしないで1日を過ごすのは本当に退屈である。午後7時PLAYLE君が家族と一緒に夕食を誘いに来たので皆でイタリアンレストランに行くことにした。オーストラリアにはイタリア移民の人が多く、イタリアンフードは本場のイタリーより私はおいしく感じる。イタリアンフードどイタリアンワインを満喫して店を出てホテルに戻る。もう10時を過ぎているのでベッドに入る。

7月22日、昨夜は本当に久しぶりの熟睡ができた。目を覚ましたのは9時である。シャワーを浴びてホテルのロビーでコーヒーを飲みながら迎えが来るまで時間を潰す。11時にPLAYLE君が迎えに来たので、ホテルをチェックアウトして出発。空港に向かう途中に来年度の全豪選手権大会を行なう会場を視察したり、役員の宿舎になるユニットハウスを見学する。全ての点で満足する設

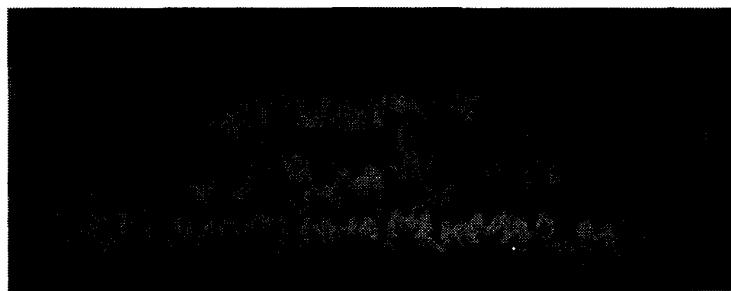
備である。時間が来たので空港に向かう。到着後、アンセット航空にチェックインをしてPLAYLE君と別れる。今日は午後1時の便で指導地ADELAIDEに向かうのであるが、搭乗までメンバーズルームで時間を潰して居ると又も飛行機が1時間遅れとのことである。まいどのこととあきらめて時間の来るのを待つ。午後2時30分PERTHからADELAIDEに飛行機は飛び立った。PERTHからADELAIDEまでは2,200km、2時間半の飛行である。



ADELAIDEは、南オーストラリアの首都で静かで教会の多い町である。又、町から1時間程の所にはオーストラリアで最大のブドウ農園のあるBAROSSA-VALLEYがある。オーストラリアワインの産地として有名な所である。このBAROSSA-VALLEYに有るワイン工場を一回り見学してくると試飲させてくれるワインだけではない人が酔って町に戻ってくるのである。PERTHとADELAIDEには時差が有り、午後6時30分ADELAIDEに到着。空港には南オーストラリア州の責任者SAMMY NOBLE君とDAVID YAP君の二人が迎えに来て居た。稽古の時間を聞くと6時30分からとのことである。すぐに空港を出て、ホテルのチェックインは後にして道場に直行し、道場で道衣に着替えすぐに稽古に入る。生徒は70名程であるが、前回まではADELAIDEの生徒は空手の稽古はただの趣味程度にしか稽古をしていなかったの、試合にもあまり興味を示さず大会に参加する選手が少なかったのですが、今回稽古に来て生徒の雰囲気

少し違っているのに気がつく。何か目標をもって稽古をして居る生徒が多い様に感じる。指導する私としては気持ちが高まる。

ADELAIDEも7才位の少年、少女から60代まで生徒はさまざまであるが、特に女性が多くなったのには驚かされる。ここから世界大会に参加するLUKE BYRNE君が居るので組手の稽古に熱が入る。女子にも組手の稽古と一緒にさせると意外にも力強い技を出して気合いが入った稽古をする。前回の指導の時と雰囲気はまったく違うので、今後が本当に楽しみである。2時間の稽古も気持ちよく指導できた。稽古の後、ホテルに



行き、チェックインをしてシャワーを浴びる。シャワーの後食事に行こうと時計を見るともう9時を過ぎている。毎回この町に来ると行きつけの日本料理店に電話を入れ遅くなったが食事をさせてもらうようにたのむと快く引き受けてくれた。店の主人と久振りに会ったので近況を話しながら食事を取る。やはり日本食は美味しい。十分に日本食を堪能してホテルに戻るともう12時近い。テレビのスイッチを入れるとオリンピック中継をしている。ベッドに入りながらテレビ中継を見つつ眠る。

7月23日、今朝目を覚ますともう9時である。外は小雨が降っている。今日は午後2時45分の飛行機でADELAIDEから450km離れたWHYALLA市に向かう。ホテルのチェックア

ウトが11時なのだが、毎回宿泊するホテルなので12時までに延ばしてもらうことにし、DAVID君に迎えに来てもらい、時間を潰しにADELAID-MARKETに昼食を取りながら見学に行くことにした。MARKETはADELAIDの台所といわれる様に食品売場が大変多く出店し、肉売場や魚売場を見て回ると、まずその量の多いのに驚かされ、次に値段の安さに驚かされる。日本の物価の高さをつくづく感じる。

時間がきたので空砲に向かう。チェックインを済ませ、10人程度しか乗れない小型飛行機でWHYALLAに向け出発。1時間の飛行である。到着するとWHYALLAの責任者でオーストラリアの最年長の指導者であるROBERT HEDGER氏が迎えに来てくれて居る。空港を出ると急に雨が降りだした。24年間の間で初めて見る大雨である。WHYALLAでは1年間に300mm程度しか雨が降らないので貴重な雨である。

POSTCARD

WHYALLAは、人口26,000人程でオーストラリア最大の製鉄会社B. H. P.の製練所の有る町である。20年前は鉄工所も景気良く、生徒の数も多かったが、今は不景気の為に多くの人がADELAIDEの方に移動してしまっただけあって生徒数も町の人口も減少してしまった。しかし不思議とこの町からはすばらしい選手が生まれる。今回の指導の目的の一つでもある、オーストラリア代表の女子選手であるSAMANTHA-FENWICKを指導することと、全豪大会少年の部で毎回優勝するASHLEY-TONKIN(11才)とGREG-TONKIN(14才)の兄弟、それに

ADAM-PIERCE(15才)の3人を将来のオーストラリア代表選手に育てと期待する生徒が居るので、この町での指導は毎回楽しみにしている。6時から稽古というのでホテルで時間を潰すことにした。6時少し前、R. HEDGER氏が迎えに来たので道場に行く。生徒は20人程である。全員で基本稽古で汗を流した後は初級者、中級者の指導をHEDGER氏に指導してもらうことにして、有段者はSAMANTHと3人の少年を中心にして試合組手の稽古に入る。SAMANTHも3人の少年も目をみはるほど動きが良い。私が怪我をするのではないかと心配する程に組手に熱中する。特に3人の少年は競争するかの様に稽古をする。本当に頼もしいかぎりである。組手稽古の後は形の稽古に入り、少年3人の団体形を指導、SAMANTHには彼女の得意形である五十四歩小をこまかく注意し何回も反復稽古をさせる。2時間30分、十分に充実した稽古をしたので私も気持ちが良い。稽古が終ると今夜は生徒と食事をすることである。9時30分に毎回行きつけの中華料理店に集合する約束をしホテルに戻ってシャワーを浴び、夕食に行く。この中華料理店の主人も20年以上の付き合いなので、私の無理な注文にも快く応えて料理を作ってくれる。美味しい料理が出ると酒がすすみ、話しもHEDGER氏もSAMANTHの日本行きの話で盛り上がる。二人とも2度目の日本行きであるが、かなり興奮して居る様子である。店の主人の好意に甘えて2時近くまで騒いでしまった。店の主人にお礼を言って今夜はお開き、また明日来ることにして店を出てホテルに戻る。さすがに今夜は眠たくなったのですぐにベッドに入る。

7月24日、午前7時ドアをノックする音に目を覚ます。何事かと思ってドアを開けると、ルームサービスである。どんでもない早さなので一瞬怒りがこみあげてくるが、気持ちを抑えて部屋の掃除は後にしてもらうことにしてベッドに戻る。するとこんどは工事が始まった。煩くてとても寝ているところではない。しかたなくベッドを出て散歩に出掛けるが、なにしろ殺風景な所なので散歩

もすぐに飽きてしまう。しかたなく煩くてもホテルの部屋に戻ってテレビでオリンピック中継を見ながら時間を潰して居ると、HEDGER氏が日本の留学生を連れてきたので、3人で昼食に出掛ける。話しを聞くと、夏休みの間だけこの地でライオンズクラブの会員の家庭で過ごすとのことである。少しの間の海外生活であるが多くの事を見たり、経験して帰ってもらいたいものである。食後、彼が今日の稽古を見たいと言うので道場で会う約束をして別れる。ホテルに戻って寛いで居ると、昔の生徒であるJIM MORTON 君が部屋を訪ねて来た。仕事が忙しく稽古を続けることが出来なくなったが、未だ空手に未練があり、空手の話となると限りなく話すので私も結構時間を潰すことが出来た。今日は5時から稽古、稽古後は昇級、昇段審査とのことである。5時少し前HEDGER氏が迎えに来たので審査用紙、証書を持って道場に行く。道場には日本人留学生も来て居る。早速稽古に入る。いつもの様に初心者、中級者、有段者と一緒に基本で汗を流す。その後、初心者、中級者の稽古をHEDGER氏に指導してもらい、私は有段者の組手、形稽古に入る。SAMANTHは、世界大会を目標に置いて真剣に稽古をしてくれるので3人の少年も負けじと稽古に打ち込む。ここまで成長してくれると指導者の欲目か全員日本に連れて行けば少年の部はオーストラリアが優



勝するのではないかと錯覚に陥ってしまいそうである。必ず次の大会には連れて行かねばならぬ選手である。稽古は2時間で終り、すぐに審査に入る。人数が少ないので1時間程で終る。今回は昇段審査を受ける生徒は一人も居ない。

審査の後、ホテルに戻り着替えをして昨夜の中華料理店に行くと、生徒や家族がもう席について私を持って居るではないか。まずは、乾杯してから料理に舌鼓を打つ。料理も酒もどんどん出てくる。普通、オーストラリアのレストランは時間がくるとクローズになってしまうのだが、この店の主人だけは私が来た時は何も言わずに時間を延長してくれるので、今夜も延々と続くような気がする。とにかく今夜はよく食べ、よく飲んだ。とくに2時を過ぎている。お開きである。ホテルに戻り、ベッドに入る前にテレビでオリンピック中継を見るがすぐに眠くなり、いつの間にか寝入ってしまった。

7月25日、午前9時HEDGER氏が迎えに来て目を覚ます。すぐにシャワーを浴びて出発の準備をする。今朝は、10時20分の飛行機でADELAIDに向かうのである。飛行場までは10分もあれば間に合うので慌てることはない。シャワーを浴びても昨夜の飲み過ぎのせいかわからない。時間が来たので空港に向かい、チェックインを済ませ、HEDGER氏と日本での再会を約束してADELAIDに向け出発する。1時間の飛行でADELAIDに到着した。空港にはSAMMY君が迎えに来てくれて居た。すぐにホテルに直行し、チェックインするが、まだ部屋の掃除が出来ていないとのことで、荷物だけを預けて彼の車でADELAIDの郊外に出掛けることにした。色々を見て回るが、特にオーストラリアの住宅街を見て回ると日本の住宅が貧弱に思えてならない。午後3時ホテルの部屋に戻り、5時まで寛ぐ。5時からADELAIDの昇級、昇段審査である。5時前にSAMMY君が迎えに来たので道場に向かう。

道場は生徒と父兄で一杯である。そして生徒には少し緊張の様子がうかがわれる。初心者、中級

者と審査を進めていくが、少年、少女はのびのびと審査を受け大変上手なのだが、成人の方は大変緊張してミスが目立つのが気掛りである。有段者の審査は、初段を受ける者3人で、内2人が10才と12才の少女である。この2人の少女は稽古の成果を十分に発揮してすばらしい成績で合格である。審査も終り全員に証書を手渡すと、お互いに称えあって喜んで居る。ここでも審査が終ると生徒と父兄が私の所に来て、記念写真を撮るようせがむのである。

この様に空手道を通して人の和ができることが肌で感じられる。これで私の今回の西オーストラリア州と南オーストラリア州の空手道の指導は終りである。そしてニュージーランドと続くのであるが、今回は西オーストラリア州と南オーストラリア州の空手道指導記として締め括らせていただきます。